

「デジタル社会における行田市将来ビジョン」 意見募集結果

案の名称	「デジタル社会における行田市将来ビジョン」 （案）
意見募集期間	令和8年6月8日（月）から令和8年7月8日（水）まで
意見提出者数	1
意見件数	3

No.	意見（概要）	意見の内容	市の考え	案の修正
1	前期計画の成果や課題分析を明示すべき	1. 前期計画（令和5年度～令和7年度）の成果及び課題分析を明示すべきである 行田市は令和5年3月に「行田市DX推進計画」を策定し、市民の利便性向上、行政事務の効率化及びデジタル社会に向けた基盤整備を基本方針として各種施策を推進してきました。（行田市公式サイト） しかしながら、今回の計画案では、前期計画において実施した施策の成果や達成状況、また未達成事項や課題についての整理が十分に示されていません。 行政計画は、これまでの取組の評価を踏まえ、改善点を明確にした上で次期計画へつなげることが重要です。特に、 ・行政手続オンライン化の利用状況 ・公共施設予約システムの利用実績 ・キャッシュレス決済導入効果 ・AI活用やペーパーレス化による業務削減効果 ・デジタルデバйд対策の成果 などについて定量的な評価を示し、その結果から明らかになった課題と対応方針を計画に記載すべきと考えます。	本ビジョンは、本市が目指す将来像とその方向性を示すものであり、社会環境の変化や本市が抱える課題を踏まえて策定するものです。 前期計画の成果につきましては、具体的な施策を示すロードマップの中で整理していく予定です。 なお、課題分析の結果につきましては、「対処すべき課題」として整理し、本ビジョンに掲載しております。	なし （原案のとおり）
2	計画目標及びKPIを設定すべき	2. 計画目標及びKPI（重要業績評価指標）を設定すべきである 計画案では施策の方向性は示されていますが、計画期間中に何をどの水準まで達成するのかという具体的な目標が明確ではありません。 DXは導入すること自体が目的ではなく、市民サービスの向上や行政運営の効率化という成果を実現することが目的です。そのため、成果を客観的に検証できるKPIの設定が不可欠です。 例えば、 ・オンライン申請利用率 ・マイナンバーカードを活用した行政サービス利用件数 ・窓口来庁者の待ち時間削減率 ・ペーパーレス化率 ・職員の事務作業時間削減率 ・市民満足度 などの数値目標を設定し、毎年度進捗状況を公表する仕組みを整備することを求めます。 目標値がなければ、計画期間終了時に成果を適切に評価することができず、PDCAサイクルが機能しません。	数値目標・KPIにつきましては、具体的な取組や実施期間等を示すロードマップにおいて設定する予定であり、本ビジョンにおいては、目指すべき将来像を示しております。	なし （原案のとおり）
3	理念及び将来像を明確に示すべき	3. DX推進の理念及び将来像を明確に示すべきである DXは単なるデジタル化やシステム導入ではなく、市民サービスや行政運営のあり方そのものを革新する取組です。（行田市公式サイト） そのため、計画の最上位に位置付けられるべき「DXによってどのような行田市を実現するのか」という理念や将来像を明確に示す必要があります。 例えば、 「誰一人取り残さないデジタル行政の実現」 「市民目線による便利でわかりやすい行政サービスの提供」 「デジタル技術を活用した持続可能な地域社会の実現」 などの基本理念を掲げ、その理念に基づいて各施策を体系化することで、計画全体の方向性が市民にとって理解しやすいものになります。 現在の計画案は個別施策の羅列に見え、DXを推進する意義や目指す姿が十分に伝わりません。理念・ビジョン・目標・施策・評価指標を一連の体系として整理することが必要と考えます。	理念については、「〔2〕デジタル社会とDX」等において示しております。 また、将来像については、「全体ビジョン」として包括的な将来像を掲げたうえで、「個別ビジョン」として場面ごと、分野ごとに示しております。	なし （原案のとおり）